「子ども・若者が安心して学べる場」とは？

教育学部　教育領域　　講師　柊澤　利也

研究シーズの概要

皆さんは、「子ども・若者が安心して学べる場」というと、どのようなところを想像するでしょうか。おそらく多くの皆さんは学校を思い浮かべたかと思います。確かに学校は「子ども・若者が安心して学べる場」ではありますが、それは必ずしも学校だけではありません。例えば学校以外にも、フリースクールや地域の居場所など多岐にわたります。私の問題関心は、「子ども・若者が安心して学べる場」とはどのようなところなのか、どうしたらそうした場ができるのか、そうした場の活動の利点や落とし穴はどのようなものなのか、にあります。というのも、これまで私は、経済的な困難やそれに伴う困難を有する生徒が集まる場（教育困難校）に足を運んだり、先生方にお話を聞いたりしてきました。そこでは、先生方の多忙化も相まって、意図せずに、どうしても一部の層の生徒がその場からいなくなってしまう（つまり、中途退学する）実態がありました。

特に高校生年代では、例えば高校が義務教育でないことを理由に、そこから離れていく生徒が一定数います。高校が公的機関の1つであることを踏まえると、そこから離れてしまうことは、かれらにとって、重要な公的機関とのつながりを失うことでもあります。そうであるならば、高校というそうした大事な「子ども・若者が安心して学べる場」から離れてしまう子ども・若者をどのようにしたら防ぐことができるのか、あるいはどのようにしたら高校内外で支えていくことができるのかを検討することが重要になります。

こうした問題関心を通して、引き続き、教育困難校の先生や学校外の中高生の「居場所」で働くスタッフの方々にインタビューしたり、その場所に自ら足を運んだりすることで、そこで何がどのように起きているのかを明らかにしていきたいと考えています。

ここで、その調査からどのようなことが考えられるのかを少しご紹介します。私が実施した調査や他の研究者が積み上げてきた研究（先行研究）を踏まえると、現場で生じる「問題」の原因を子ども・若者や先生方のみに求めることの危うさが見えてきます。例えば学校を離れてしまいそうな子ども・若者が自身ではどうしようもない事情を抱えているにもかかわらず、かれら自身に改善を求めることはどうでしょうか。また既に先生方は日々尽力されているにもかかわらず、これ以上の負担を強いたら先生方はどうなってしまうでしょうか。

そうした個人に原因を求め改善をしていくというよりは、どのようにして学校に登校できる環境を整えられるのか、日々尽力される先生やスタッフの方々がどのようにしたら生徒に向き合えるのか、といった環境の調整に目を向けていくことの重要さが見えてきます。そうした調査研究を通して、これからも「子ども・若者が安心して学べる場」について日々検討していきたいと考えています。

【利用が見込まれる分野】　教育学

研究者プロフィール

柊澤　利也　／　ヒイラギザワ　トシヤ

所属学部等	教育学部　教育領域
職位	講師
学位	修士（教育学）
研究キーワード	教育機会、不登校、中途退学

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで

直通電話番号：087-832-1672　　メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp

問い合せ番号：ED-24-001